



作業で暮らしに彩りを ～健康と幸福に寄与する作業療法士～

YouTube

動画で解説!

「作業療法ってなんですか？」



リハビリテーションの専門職である作業療法士は、医療や福祉・介護の現場はもちろん、保健・教育・就労支援の現場など多様な領域で活躍しています。生きがいを持ち、豊かに生きることを支援しています。

その人らしい生活を
「作業」を通じて作る

作業とは、食事や入浴、仕事や余暇、地域の活動など、日常生活に関わる全ての諸活動のことです。作業療法士は病気やケガの症状、心の状態、障害などにあわせて、“その人らしい生活”の獲得を目標に、基本的な動作能力から、社会の中に適応する能力までを維持・改善するためにサポートします。

その人が最も輝く作業から生まれる活力と希望
日常生活に関わる「作業」は、人によってその必要性や意味は異なります。その人の人生に欠かせない大切な「作業」もあります。



社会的適応能力

地域活動への参加、就学・就労など

応用的動作能力

食事やトイレ、家事など、
日常で必要となる活動

基本的動作能力

運動や感覚・知覚、
心肺や
精神・認知などの
心身機能



吉村和宏さん 63歳

人生に欠かせない
作業は「ラジコン」

3年前に脳梗塞を発症した吉村和宏さん(63歳)は、右半身に麻痺が残り、入院していた多摩丘陵病院(町田市)でリハビリに励んでいました。その時に出会ったのが、東京都作業療法士会の三沢幸史さんです。三沢さんは当時をこう振り返ります。「吉村さんと会話する中で、いきいきと話してくれたのが、趣味のラジコンのことでした。地区のラジコン同好会の会長を務めていることも知り、作業療法にラジコンの操作を取り入れることを提案しました」。



東京都作業療法士会
副会長 三沢幸史さん

吉村さんは「驚きましたよ(笑)。まさかラジコンの操作が

リハビリになるとは思ってもいなかったのです。でも嬉しかったですね」と話します。病院の敷地内で作業療法士のスタッフとラジコンカーの操作による手の機能訓練を始めた吉村さんは「手や指が思うように動かず、ぎこちなかった操作も日増しに改善していきました。病院に自分で許可を取り、昼休みの時間もラジコンカーを走らせることもありました。楽しくて夢中でしたね」と笑みをこぼします。



ラジコンカーを走らせる
吉村さん

体と心の回復を目指す、十人十色の作業

退院した吉村さんは、その後、東京天使病院(八王子市)のリハビリテーションセンターに通院。目標は、ラジ

コンのメンテナンスができるようになることでした。同センターの作業療法士・中村哲也さんは、「ラジコンのパーツは細かく、手がこわばっていた吉村さんにとっては大変な作業でした。それでも吉村さんは“なんとかかなりそうだ”と前向きに取り組まれていました」と話します。

リハビリには痛みや疲れが伴い、意欲が低下してしまうケースもあります。「心がついていけないためです。吉村さんのように目標や動機が明確だと、リハビリの壁を乗り越える力も自然に湧き、回復も早くなります」と中村さんは語ります。そのため、作業療法士の中村さんと三沢さんは、「患者さんの生きがいや大切な作業を明らかにすること



東京天使病院 作業療法科
科長 中村哲也さん

を重視しています」と口をそろえます。「以前のようにギターを演奏したい」、「もう一度、鮎釣りがしたい」、「スマホの操作だけはどうにか出来るように」、「ロックバンドのライブに行きたい」など患者さん一人ひとりの目標や希望をリハビリのプログラムに落とし込み、患者さんの人生に伴走しています。

作業療法士は一人ひとりの人生に向き合い、生きがいをもって豊かに生きることを支援しています。

